「京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会」

第１次提言

平成２３年１月

「京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会」

第１次提言

１　はじめに

　　スポーツは、私たちに夢や希望、感動や勇気を与えてくれるとともに、青少年の健全育成や府民の健康増進、さらには地域の絆づくりにも大きな力を発揮している。

しかしながら、京都府のスポーツ施設の状況をみると、昭和６３年の京都国体をピークに整備が進められて以降、新たな拠点整備も行われておらず、老朽化が進行している。

また、この間、市民スポーツの現状は、新しい競技が生まれたり、地域のスポーツクラブの発達、さらには、地域密着型のプロスポーツの誕生など大きく変わる中、府民のスポーツに対するニーズも変化してきているが、それに対応するには京都府のスポーツ施設は、質量ともに厳しい状況に直面している。

京都府の競技力は、全国的に見ても上位を維持しているものの、このような状況が続けば、府民スポーツの衰退を招き、ひいては、競技力の低下や府民の健康問題、さらには京都府全体の活力の低下に繋がるのではないかと危惧をするところである。

このような状況の中で、京都府の未来を考えるとき、今こそ、スポーツ施設に対する整備のあり方を真剣に議論していく必要がある。

広範な府民がスポーツに親しむ機会を確保し、府民の競技力の底上げを図るため、京都府のスポーツ施設整備のあり方について、多角的な見地から検討を行うこととし、我々は、平成２２年１１月に設置以来、月１回以上のペースで、これまで４回の議論を重ねてきた。厳しい財政状況の中で、京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会（以下「本懇話会」という。）の意見が、京都府の平成２３年度予算に何らかの形で反映されるよう、現時点での議論内容をまとめ、第１次提言を行うものである。

２　京都府のスポーツの現状

(1) スポーツ施設の現状

①　京都府内の公共スポーツ施設は、昭和６３年に開催された「京都国体」をピークとして整備が進められ、山城総合運動公園など８９施設が国体競技会場として新設・改修整備されたが、四半世紀を経過し施設の老朽化が進行している。

②　「京都国体」開催以降、新たな公共スポーツ拠点の整備は行われておらず、府内の公共スポーツ施設の数は７６３施設と全国で３１位、人口規模類似府県と比較した場合では最下位と非常に少ない状況にある。

③　主要なスポーツ施設数についてみても、体育館については府立体育館など１０５施設と、人口規模類似府県と比較した場合では最下位と非常に少ない状況にある。

また、屋外の主要なスポーツ施設数について、夜間照明のあるものについて比較すると、陸上競技場が西京極総合運動公園陸上競技場など２施設、野球場が西京極総合運動公園野球場など７施設、球技場についてはなく、同様に最下位と非常に少ない状況にある。

なお、グランドゴルフなどのニュースポーツにも近年多くの府民が親しんで来ていることなどの状況変化を踏まえ、新たな府民ニーズに応える市民スポーツ施設についても、整備が検討されるべき段階になっている。

④　主要なスポーツ施設における全国規模の大会等の開催状況を見ると、陸上競技場では西京極総合運動公園陸上競技場で全国都道府県対抗女子駅伝競走大会などが、また、野球場では西京極総合運動公園野球場でプロ野球の試合などが、体育館では府市立体育館でバスケットボールｂｊリーグの試合などが、球技場では西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場でサッカーのＪリーグの試合が開催されているが、近年国際的な試合は開催されていない。

なお、専用球技場としては宝が池公園運動施設球技場があるが、ピッチが人工芝であり、また、観客席が６，０００席に止まっており、夜間照明設備も設置されておらず、多くの観客を集める大規模な球技大会は、開催されていない。

(2) スポーツを取り巻く状況の変化等

①　スポーツを通じた健康づくりやグランドゴルフやゲートボールなど幅広いニュースポーツの誕生など府民のスポーツに関するニーズは高まっており、だれもが、いつでも、どこでも気軽に参加できる生涯スポーツ環境の整備が課題となっている。

②　京都府の競技力は、国体開催後は順位を落とす府県が多い中で、「京都国体」開催以降も毎年上位の成績を収めており、平成２２年度においても男女総合７位、女子総合８位となるなど、京都府競技力向上対策本部を中心としてその維持が図られているが、更なる競技力の向上のためにも、スポーツ団体からは、スポーツ施設の充実、整備の要望が強い。

③　新たなプロスポーツの誕生やサッカーワールドカップをはじめとする国際大会の開催などをきっかけに、高度な技術を身近で体感し、より臨場感あふれる迫力のある試合の観戦を通して、スポーツの楽しさを実感し、よりレベルの高い試合を見たいという府民ニーズが高まってきている。

④　スポーツの多様化、高度化が進んできており、「する人」、「観る人」、「支える人」それぞれの立場にあった環境の整備が求められている。「する人」が中心であったスポーツ施設整備についても、観客などの「観る人」、ボランティアなどの「支える人」、これらの人々の一体感が醸成できるようなスポーツ施設整備が求められている。

⑤　バスケットボールやサッカーなどの新しいプロスポーツは地域密着型に移行しており、スポーツ施設を拠点として地域活性化に貢献する動きが出てきている。

３　本懇話会での検討状況

(1) これまでの議論の概要

本懇話会では、京都府のスポーツの現状を踏まえ、熱心な議論を行う中で、

①　府立体育館など府立のスポーツ施設の老朽化が進んでおり、適切なリニューアルを行う必要がある。

②　競技スポーツと市民スポーツの双方に係る施設整備を進めることが大切。

③　国際的な試合を開催することができる体育館などの整備が必要。

④　全国的な試合を開催することができる球技場の新設。

⑤　スポーツ科学センターの整備。

などの課題が出された。

また、競技団体に対するアンケート調査からは、

①　国際的な試合や全国的な試合を誘致できる体育館や陸上競技場の設置

②　球技場の設置

③　多目的ドーム、スケート競技施設、グランドゴルフ専用施設、武道場、クライミングウォール、仮設射場の設置

④　テニスコートの整備

⑤　陸上競技場、野球場の改修（夜間照明、スタンド屋根）

などの要望が寄せられた。

　　　現時点においても、京都府全体として、多くのスポーツ施設の整備・改修の要望が出されており、今後意見聴取を進めていく中で、さらに、施設整備の要望は増えていくものと考えられる。

本懇話会として、具体の整備に繋げていくために、

1. 大きな枠組みの中で、多くの府民の賛同を得て府民参画が図られるようなスポーツ施設全体の整備をどのようにしていくか提案する必要がある。

②　府民の要望に応えるべく、競技スポーツ、市民スポーツの双方に関わる施設整備を進める必要があるが、そのためにもできる限り計画的に、優先順位をつけて整備すべき。

などの議論がなされた。

(2) 施設整備のあり方について

　　　本懇話会では、施設整備に向けて、現在、府内にあるスポーツ施設については、機能の拡充等も含めて効果的にリニューアルすべき、また、府内にない施設については、新設すべき、との考え方のもと、当面、論点を２点にまとめ、議論をすることとしたところである。

* 1. 市民スポーツ施設の整備を図るため、府民ニーズを踏まえた府立のスポーツ施設の総合的リニューアル
  2. 現在の府立のスポーツ施設では対応できないスポーツ施設の重点的整備

現在までに、集中的に議論が進められた方向は次のとおりである。

①　府立のスポーツ施設の総合的リニューアル

　　京都府立の主要なスポーツ施設は、いずれも整備後２０年～４０年が経過し、経年劣化等による老朽化が進行しており、リニューアル改修の検討が必要。

　　リニューアルに当たっては国際的な試合や全国的な試合を開催できるよう施設の改善を行うべき。

　　府立体育館を、国際的な試合等に対応できるよう優先的にリニューアル整備することが必要。

　　さらに、山城総合運動公園・丹波自然運動公園などにおいては、府民ニーズに応えるテニスコート等のリニューアルやグランドゴルフ等新たなスポーツ種目に対応できる整備にも積極的に取り組むことが望まれる。

②　スポーツ施設の重点的整備

現在、サッカー、ラグビー、アメリカンフットボールなど京都において高い需要があるにもかかわらず、国際的な試合や全国的な試合の開催が可能な球技場が京都府内にはないことから、これに対応する競技場の新設を検討すべき。

(3) 議論を深化させるための提言

　本懇話会としては、引き続きスポーツ施設全体の整備について議論を深めていくこととしているが、

①　府民のニーズ調査や、既存の施設、さらには、新しい施設の整備について、府民が具体的なイメージを持てるようにするため、専門的見地からの検討が必要との提案があったことから、本懇話会に専門部会を設置されたい。

　　　②　専門部会での検討を円滑に進めるため、新たに専門的な調査の実施についても、検討されたい。

４　むすびに

　　本懇話会は、平成２２年１１月に設置以来、月１回以上のペースで、これまで４回の議論を重ね、第１次提言をまとめたところである。

この間、多忙の中、熱心に議論いただいた各委員に、心から感謝をする。

京都府には、本懇話会の第１次提言が平成２３年度予算に何らかの形で反映されることを切望する。

　　平成２３年１月

　　　　　　　　　　　　　　京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会

　　　　　　　　　　　　　　　　座　　長　　　桝　　岡　　義　　明

＜別表１＞

都道府県別公共スポーツ施設数の状況



平成２０年度：文部科学省統計データより

＜別表２＞

政令指定都市を抱える府県及び人口規模類似府県別公共スポーツ施設数の状況



平成２０年度：文部科学省統計データより

＜別表３＞

政令指定都市を抱える府県及び人口規模類似府県別公共スポーツ施設数の状況

（体育館以外は夜間照明設備のある公共スポーツ施設数）

＜体育館＞　　　　　　　　　　 ＜陸上競技場＞

　　　

＜野球場・ソフトボール場＞ ＜球技場＞

　　　

平成２０年度：文部科学省統計データより

＜別表４＞

**府内の主要な公共スポーツ施設の状況と全国レベルの試合・大会等**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **施　設** | **主　な　施　設** | **主な全国レベルの試合・大会等** |
| **陸上競技場** | **・西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場（第１種公認）** | **・全国都道府県対抗女子駅伝**  **・全国高等学校男子・女子駅伝**  **・サッカーＪリーグ** |
| **野球場** | **・西京極総合運動公園野球場** | **・プロ野球公式戦**  **・女子プロ野球** |
| **体育館** | **・京都府立体育館**  **・京都市体育館**  **・向日市民体育館**  **・舞鶴文化公園体育館** | **・バスケットボールｂｊリーグ**  **（府立体育館、京都市体育館、**  **向日市民体育館）**  **・バスケットボール日本リーグ**  **（府立体育館、京都市体育館）**  **・バレーボール日本リーグ**  **（府立体育館、舞鶴文化公園体育館）**  **・島津全日本室内テニス選手権大会（京都市体育館）** |
| **球技場** | **・宝が池公園運動施設球技場** | **・なし** |

「京都府におけるスポーツ施設のあり方懇話会」主な意見

＜府立スポーツ施設のリニューアルについて＞

・府立のスポーツ施設は大変老朽化している。

・府立体育館はシャワー室、トイレ等の数が少なく、老朽化が激しい。リニューアルが必要

・太陽が丘の体育館は床の強度不足で仮設席が設置できず、プロバスケットボールの試合が開催できない。府立体育館も含め観客席の整備を検討されたい。

・体育館の音響設備の充実が必要。

・国際試合等を開催できる体育館が京都にできることを本当に望んでいる。

・山城や丹波に広くて立派な施設があり、そこをもっと研究してリニューアルすれば、お金をかけないで整備できる。

＜レベルの高い競技会が開催できるスポーツ施設の新設について＞

・国際大会が開催できるスタジアムや体育館がない。海外ではスポーツ施設が

地域を活性化し、地域振興の拠点ともなっている。

・西京極陸上競技場は陸上競技の全国大会とＪリーグを開催する関係から日程

調整が困難。サッカー専用スタジアムの整備は非常に喜ばしい。

・府内には、サッカーＡＣＬ（アジアチャンピオンズリーグ）の試合ができる施設がない。オーロラビジョンもない。国際的どころか国内的にも京都は誇れない状況。優先順位を考えていただきたい。

・新たな施設はラグビー、アメリカンフットボールも利用可能となるよう考慮すべき。

・どのようなスポーツ施設が必要か各競技団体の意向調査をする必要がある。

・施設整備には税金が投入される。他の施策と比較してどれくらい優先度が高

いかということを見極める必要がある。

・広い土地と財政的裏付けが必要であるが、そこへ行けば屋内スポーツもサッカーも子ども達が遊べる環境もあるという発想で検討いただきたい。

・サッカースタジアムはゲームをするだけでなく、子どもが憧れ、地域に貢献する複合型施設であるとともに、「観る」人の立場で整備する必要がある。

・施設整備には初期投資に加え、ランニングフィーが過大なものにならないよう検討する必要がある。京都の英知を結集して検討すべき。

・優先順位でいけば、サッカースタジアムの整備は当然だが、雨天時にもプレーできる多目的ドームのニーズが高まっていることにも留意する必要がある。

・競技施設だけではなく、国立スポーツ科学センター（ＪＩＳＳ）と同様のス

ポーツ科学拠点を整備することも必要。

・整備後のスタジアム運営面についても考慮すべき。（サッカーだけでは）１年のうち１／３程度しか使わない。サッカーだけでなく、いろんな競技もできるような施設、全天候型など京都にしかないものを造るべき。

・スタジアムは天然芝とする以上、利用日数に限りがあるが、施設内の会議室などスポーツだけでなく、イベントの開催や地域のコミュニケーションをとる場として貸し出すなどすれば、多様性が出てくる。

・府民が諸手を挙げて応援していこう、他のスポーツ団体も優先的に応援するといった世論を盛り上げていく施策が必要。何年までに球技場、何年からは室内競技場というような長いスパンを示す必要があるのではないか。

・新しい施設は、例えば、環境やエコロジーといったようなコンセプトを全面に押し出し、それをどう具現化するのかが大事。競技場は拡張性やユニバーサルデザイン、人が集まる複合型といったようなものを考えていただきたい。

・府は他のスポーツや府民が挙って賛成できるような将来のスポーツ施設の整備の青写真を示すべき。また、青少年に配慮した施設利用とすべき。

・京都府がスポーツに対し、こういう形で行政として動こうとしていること自体がすばらしいことで、これをつぶさないようにしないといけない。京都は何かしようとすると必ずネガティブな発言が強くなって結果的に何もしない。今回こそ一丸となってやるべきで、やる時期が来たのではないかと思う。

・サッカーは世界で一番人口の多いスポーツ。こういうものから手がけていくのはそれなりに理由があり、みなさんの気持ちを一つにしてやらないと。あれもこれもと言い出すと、また次の２０年後の「残念でした」ということになってしまうと思う。

・今ある施設の改修というのは一定イメージを持つことができるが、新しい施設を造るためには、施設の専門家や有識者で専門部会を立ち上げ検討いただいた後、その内容を踏まえて懇話会で議論してはどうか。

・スタジアムの建設事例や運営費の課題等について調査し、その結果をもとに有識者による専門部会で検討すべき。また、府民から募金を募るためにも、府民みんなでアイデアを出して造った方が良い。

・全国レベルで客席２万人クラスのスタジアムで施設運営に係る良いところ、改善を要するところなど情報を収集すべき。

・場所の問題は大きい。一定の目途を立てて議論すべき。

・屋内競技種目から見ると、体育館施設のリニューアルも一緒に考えた予算組みを行っていただきたい。

・府の平成２３年度当初予算編成に間に合うよう方向付けを示す必要がある。

府立スポーツ施設整備に関する各競技団体アンケート調査（中間まとめ）

回答数：３３競技団体（調査対象：４２競技団体）

＜府立スポーツ施設のリニューアル＞

【府立体育館】

・国際試合等に対応した施設への改修（床の構造強化、照明照度向上、

ドーピング室設置、観覧席整備、トイレ・シャワー室・更衣室の改善、

空調設備改善、会議室増設、ＬＡＮ等高速回線整備、駐車場拡大　等）

・競技力向上等に対応した整備

（クライミングウォール設置、仮設射場の設置、各種競技用設備の設置 等）

・利便性向上への改修（２階通路整備、会議室・更衣室の空調設備改善）

【山城総合運動公園】

・国際試合等に対応した施設への改修（体育館床の構造強化）

・国内大会招へい、利便性向上への改修（陸上競技場への夜間照明設置、

スタンド屋根拡大、更衣室の設置、大型得点板の設置、

野球場への夜間照明設置及び観客席増設　等）

・競技力向上等に対応した整備（テニスコート整備、遠的射場の設置、

クライミングウォール設置、みどりが丘グランドの芝生化　等）

【丹波自然運動公園】

・競技力向上等に対応した整備（体育館の床張替、更衣室整備　等）

・利便性向上への改修（グランド排水整備、陸上競技場スタンドの屋根拡大、補助競技場整備、テニスコートへの夜間照明設置、ゲートボール場整備　等）

【伏見港公園】

・国際試合等に対応した施設への改修（体育館床の構造強化）

・競技力向上等に対応した整備（体育館シュートリング改修　等）

・利便性向上への改修（プール更衣室改修）

＜スポーツ施設の新設＞

・球技専用スタジアムの建設

・国際試合を誘致できる体育館、陸上競技場の設置

・多目的ドームの建設

・スケート競技施設の建設

・グランドゴルフ専用施設の整備

・府立の武道場の設置